開発教育ニュースレター　No 17, 1989.3

発行：東京都新宿区西早稲田2-3-18-61
開発教育協議会事務局　Tel 03-207-8085

熱のこもったセミナー，京都で開かれる

前号で紹介した開発教育推進セミナーが，2月18，19の2日間にわたって，京都の関西セミナーハウスで開かれた．これはもともと同セミナーハウスが開発教育に関心をもつ関西地域の人々を対象にして開こうとしたもの．その後，本協議会と検討の結果，参加者の幅を広げ，外務省の協力を得て，全国的な規模にすることになったものである．

機関誌「開発教育」第13号でその内容を報告した，昨年3月の東京における開発教育推進研究会に引き続くものでもあった．

セミナーには弘前，新潟，金沢，東京，名古屋，岡山，広島，熊本などからの参加者も含めて約60名が集まったが，今回の特徴は圧倒的に学校教師が多いことだった．発題や問題提起，あるいは実践発表も学校教育における開発教育の展開にかかわるものがほとんどで，夏の全国研究集会に引き続き熱のこもった具体的な実践論議の場となった．内容は機関誌「開発教育」でいずれ近いうちに報告の予定．

総会は5月13日，東京で

すでにニュースレター前号でお知らせしている通り，ことしの開発教育協議会総会は5月13日（土）午後2時から4時半まで，東京の新宿区にある早稲田奉仕園セミナーハウスで開かれる．議題は，1988年度の活動報告および新年度の活動方針や予算について．年一回の総会であるので，できるだけ多くの会員の参加が期待される．正式の案内状は，近いうちに会員宛に郵送されることになっている．

バングラデシュ洪水
復興にご協力を

開発教育協議会の会員団体もいくつか加わった開発協力NGOが，NGO活動推進センターの働きかけで，バングラデシュ洪水救援・復興NGO合同委員会を結成し，復興資金の募金活動に取り組んでいる．

昨年の夏以来，しばしば報道されたことであるが，今世紀最大の規模だといわれる洪水が8月末にバングラデシュを襲い，国土の4分の3が水につかり，被害者は4千万人以上にも及んだ．この災害に対する各国の政府や民間団体からの緊急援助は一段落した状態であるが，飲料水や食料の確保を始め，田畑の復興や作付けの開始，住む家や道路，橋の修復，学校や医療施設の再建など，復興作業が始められており，そのための協力援助がバングラデシュの民間団体から期待されている．

これらの要請に応えて，日本の15の開発協力NGOは，各団体の枠を越えて復興募金に協力することになり，そのための委員会を設置し，募金活動に取り組み始めた．

募金の期限を一応ことしの3月末までと区切っている．募金は東京都文京区本郷1-14-5 NGO活動推進センター（電話03-818-8613）に届けるか，郵便振替送金なら，

東京 4-255644 のバングラ洪水NGO 協力基金宛に，銀行送金なら東海銀行水道橋支店の口座番号283-162 （普通），バングラ洪水NGO 協力基金宛に．

ストリート チルドレン

現状報告の本ができました

３千万という数に達するといわれる世界のストリート・チルドレンのことが，急速に人々の注意を引き出している．そして愛してくれる人も，守ってくれる人もいないストリート・チルドレンのことを，都市の爆発的な膨張，核家族への移行，貧困，抑圧的政治など，現代都市文明の犠牲者と位置づけ，それが未来にとって恐るべき意味をもっているとした本が，国際人道問題独立委員会から発行された．

現在のような人口増加が続くかぎり，ストリート・チルドレンの数も増え続けるだろうし，この問題に対する人間的な取り組みが必要だと主張するこの本は，日本ユニセフ協会によって翻訳され，草土文化から発行された．「都市化とストリートチルドレン」という緒方貞子さんの巻頭論文，また「日本の『隠れストリートチルドレン』」という堂本暁子さんのレポートも掲載されている．関心の向きは，日本ユニセフ協会 （東京都港区麻布台3-1-2 ）あるいは草土文化（東京都千代田区五番町10-6）まで．定価は 1部 1,500円，送料 250円．

来年は『国際識字年』です

1985年現在で，地球上の15歳以上の人間のうち，９億人近くが文字の読み書きができないとされている．しかし，この数字は文字の読み書きができないとはどういう状態であるのかということをきちんと定義したうえで，完全に調査をした結果ではなくしたがって，概数としてとらえておくよりしかたのない数字である．それにしても世界人口の 5人にひとりは文字を知らないというのだから，とてつもなく大きな問題であることには違いない．

文字を知らない人たちの内訳は，開発途上国が 98%で，そのほぼ半分は女性．そして世界の中でもっとも人口の多いアジア地域は，全体の 4分の 3を占め， 6億 7千万人を数えているが，識字率が最も低いのは（文字を知らない人の率が高いのは）アフリカだそうだ．

どんどん複雑になっていくばかりの世界で文字の読み書きができないというのは，個人にとっても，その人が属している社会にとっても不幸で不便なことである．文字の読み書きができない人を地球上からなくしてしまおう，という働きかけがこの 4,5年の間に高まってきた．そしてユネスコの提案をうけて，国連は1987年の総会で1990年を「国際識字年」とすることにしたのである．

開発途上国では，国民の識字力は国の低

開発や貧困の克服にかかわる基礎的な条件であると考えられているし，またいくつもの工業化した国では，単純な文字の読み書きはともかくも，日常生活や社会活動に不自由しないだけの識字力（機能的識字力）を身につけていない国民が増えていることに悩んでいる．現代社会における識字力というのは，すべての国に共通した課題となっている．

ユネスコでは，国際識字年を1990年の1年限りのこととせずに，2000年までに文字の読み書きができない人を地球からなくしてしまおう，と国際識字年の長期実施計画を策定中．わが国の開発協力 NGOが，この分野で一層の協力活動を進めていくことが強く期待されているし，また今後は国際的な識字教育活動のための活発な募金活動を日本の中で積極的に展開していくことも求められている．

Africa Kit

ニューヨークのUN/NGLS から発行

ニューヨークにある国連の非政府連絡業務部が "Africa Kit "を刊行した．ヨーロッパやアメリカの開発協力NGO や開発教育関係者の間に，アフリカについての関心がここ 2,3年の間に高まってきたのを受けて刊行されたもの．キットといっても実態はA4版で10ページから40ページ足らずの冊子が 3冊でセットになったもので，第 1冊は「Africa Update」という表題で，国際連合のアフリカ開発事業計画の解説が主体である．イシューとしてアフリカの債務問題，女性問題，環境問題についての簡単な解説がついている．

第 2冊は「 NGO and Africa 」という表題で，1986年の国連アフリカ問題特別総会において，開発協力NGO がアフリカ問題について討議したり勧告したことの要約やアフリカの経済社会危機についての NGO宣言などが掲載されている．

第 3冊は資料一覧で，アメリカ合衆国とカナダにおけるアフリカに関する開発教育資料を発行している団体，情報調査団体，政府機関，定期刊行物や単行本，教材などについての情報が盛り込まれている．英・仏両語で刊行されているが，希望の向きは10ドル同封のうえ， NGLS/UN, DC2-1103, New York, NY10017, USA に申し込むとよい．

（編者注：これは英語かフランス語でなければ読めない資料ですが，会員の中には外国で刊行された資料や文献についての生の情報を求めてる方がいるかもしれない，と考えて紹介しました）．

いろいろなことが試みられています
ー世界各地のニュースからー

ベルギーから　アントワープでは教育者たちが協力して「子どものための地球ワークショップ」を開設した．これは小学校の子どもたちが自分たちと違う文化を知り，理解し，尊重するようになり，連帯の気持ちをもつようになることをねらいとするもので，移民労働者が住みついている地域の廃屋を利用して，ペルーの山村，巨大なリマの市街地，そしてベルギーの炭坑労働者としてたくさんの移民労働者を迎えているトルコのタバコ葉栽培村を示す場面を展示活用用に作成したものである．それぞれの場面には，教師たちの手で，カラースライド，歴史や地理の資料，訪問後の活動へのヒント，教師用手引きを含む開発教育用教材セットが準備されている．

教師や親と一緒にこの施設を利用する子どもたちは，あらかじめアントワープのペルーに行くのか，アントワープのトルコに行くのかを決めなければいけない．この施設利用のための準備は，訪問に先立って学校で行われる．その準備学習用として，いろいろな教科にまたがる特別なキットが用意されているが，午後の時間を 2日分あてる必要がある．訪問する時には，クラスはペルー組とトルコ組とのふたつに分かれ施設の指導者が案内する．子どもたちは，そこでそれぞれの土地の衣装を身につけ，さまざまな道具を使い，それぞれの場面における生活のミニ体験をする．これは半日プログラムで，最後には子どもたちの経験を整理するまとめの時間があり，これからどうやって学習を進めていけばよいかについても説明を受ける．

学校単位でなくても教会や労働組合の子ども会単位で利用することもでき，また教師を対象とする特別コースも開いている．特に移民労働者の子どもを含んでいるグループには効果が高いという評価がある．

フランスから　フランス教育省は1988年から中等学校には公民と人権入門を導入し1990年からはこれをバカロレア（大学入学資格試験）の必修科目にすることにしている．これは歴史科の一部として，人権や連帯などを含む社会的問題という単位名のもとに教えられるが，教育省は生徒の学校外活動のテーマとしても，大いに人権問題を取り上げるよう指導していくということである．これらの措置はフランス革命および人権と市民権宣言 200年記念事業の一環だと説明されている．

スイスから　スイスのユニセフ委員会は「ひとつの世界のための学校」という学習週間を教員養成学校に設けた．第三世界の問題をクラスに持ち込むことを教師がためらわないようにするために，未来の教師である学生たちに，考え方と具体的な実践方法を教えようとするもので，ひとつの世界

という理念とそれを子どもたちに伝えていくためのさまざまな教授技法や教材が取り上げられた．

（以上，いずれもUNICEFの「Development Education News Bulletin」1987年 9月号から）

▒協議会事務局▒

＊ 機関誌「開発教育」の発行が遅れて申しわけありませんでした．ようやく第14号が完成し，会員各位あてに送付を完了したところです．第15号は総会までに間に合わせようと，担当者は編集作業に力を入れています．

＊ 前号でお知らせした小委員会による事務局作業の分担方式は，まあまあの滑り出しです．しかし，作業量は多くなるばかりで，無給のボランティアのみによる事務局運営はいよいよ限界に達していると判断せざるをえません．

次回の理事会では財政運営を含む新年度の方針・計画案が協議されます．

新入・継続会員の紹介

（11月25日-2月22日，敬称略）

＜新入会員＞

田上　喜美（宮城）
岩田　尚美（茨城）
大塚　雅信（千葉）
木内　圭一（埼玉）
田中　桃子（〃　）
日下部京子（東京）
幸田　雅夫（〃　）
青年海外協力協会（〃　）
戸田　智弘（〃　）
樋口真貴子（〃　）
太田　弘（神奈川）
木村　真吾（〃　）
熊坂真知子（〃　）
杉本　晧子（愛知）
原　　真一（〃　）
福和　康夫（〃　）
佐々木康夫（福井）
池田　荘児（京都）
尾関　京子（京都）
森　　正恵（京都）
中内　すま（大阪）
三宅　貴江（大阪）
田所　五雄（兵庫）
広畑　周子（岡山）
柳谷　哲史（広島）
山根　和代（高知）

＜継続会員＞

阪崎健治朗（北海道）
大木　真一（岩手）
佐藤　道博（茨城）
百合　壽紀（埼玉）
小林　和夫（千葉）
坂田　喜子（〃　）
市川　正弘（東京）
シャプラニール（〃　）
鈴木　寛一（〃　）
田中　　力（〃　）
東和大学（〃　）
中野スミ子（〃　）
長谷川　勉（〃　）
初岡昌一郎（〃　）
立正佼成会青年部（〃　）
吉永　　宏（〃　）
恵美彰義（神奈川）
棚橋　和正（〃　）
山崎　正気（〃　）
西村　佳美（京都）
岩崎　裕保（大阪）
福田　　菊（〃　）
松井　秀樹（〃　）
村田　圭子（〃　）
本條　　誠（兵庫）
真部誠一郎（岡山）
木村　一子（広島）
長松　孝明（〃　）
福山YMCA（〃　）
上川　倫子（熊本）
松本　汎人（長崎）